

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|------------------|--|---|--------------------|--|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 理念を掲げている。 | | 施設内に張っており、介護が理念に近づけるようにしている |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は誰もがわかる場所に貼り、理念の実践に取り組んでいる。 | | |
| 3 | | 家族や地域への理念の浸透 | 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 自治会や地域の商店や派出所、郵便局等、理解してもらい協力を得ている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | | |
| 4 | | 隣近所とのつきあい | 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 玄関先にベンチやプランター植えの野菜や実のなる木を準備し、共有できる場を十分に生かして交流している。 | | |
| 5 | 3 | 地域とのつきあい | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会、縁日や草取りなど地域との交流を大事に交流している。 | | |
| 6 | | 事業所の力を活かした地域貢献 | 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地域の民生委員との交流を通して、高齢者の相談に応じている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | | |
| 7 | 4 | 評価の意義の理解と活用 | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | より良い共同生活がつけれるよう、家族に送付、職員全体で評価を共有し改善に活かしている。 | | |
| 8 | 5 | 運営推進会議を活かした取り組み | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 評価機関・家族・自分たちとの評価の違いから、どの視点からの関わりが不十分なのか、話し合い具体的な関わりにむすびつけサービスの向上に活かしている。 | | 独りよがりになっていないか、見る角度、視点の違いから自分たちの介護を見つめ直すことにさらに役立てていきたい。 |
| 9 | 6 | 市町村との連携 | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 食っちゃ寝の生活を求め、廃用に向かっていく高齢者に市町村との連携なしでは難しく、その都度連絡を取り合い、利用者の自立支援のサービスに努力している。 | | |
| 10 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護の必要な方は活用できるよう支援している。 | | |
| 11 | | 虐待の防止の徹底 | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については厚生労働省「身体拘束ゼロへの手引き」を学習。表5-2を目に付くところに貼り、身体拘束はしないですむ介護を目指している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----------|---------------------|--|---|--------------------|----------------------------------|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | | |
| 12 | | 契約に関する説明と納得 | 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居後の共同生活を同じ目的に向かって組み立てていくには、契約前の説明・理解が得られることが重要なので行っている。 | | |
| 13 | | 運営に関する利用者意見の反映 | 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約書の中に相談窓口として行政の連絡先を掲示してある。施設内ポスト設置。 | | |
| 14 | 7 | 家族等への報告 | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 入居後の共同生活を同じ目的に向かって組み立てていくには、契約前の説明・理解が得られることが重要なので行っている。 | | |
| 15 | 8 | 運営に関する家族等意見の反映 | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族と共に利用者の今を共有し、家族と共に利用者の心身の安定を図っている。苦情や不満という形ではなく意見として理解しあい利用者にとって同化の視点で取り組むことを核に家族等と連携をとっている。 | | |
| 16 | | 運営に関する職員意見の反映 | 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 利用者の変化にあわせ随時意見交換、週に一度ミーティングを行っている。 | | |
| 17 | | 柔軟な対応に向けた勤務調整 | 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 常勤の職員構成で利用者の状態に合わせて対応し利用者の状態安定を図っている。 | | |
| 18 | 9 | 職員の異動等による影響への配慮 | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 移動には利用者との共同生活に、馴染みの職員と新職員のプラスの面が活かされるよう利用者にとっての利点を考えてから行っている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | | |
| 19 | 10 | 職員を育てる取り組み | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 自分の人生の一部分を悔いのないものにしていきましよう、声を掛け合いながら、よりよいかかわりができるように公的な研修に参加している。介護力向上に向けて、法人内でも研修資料を読んだり、利用者の状態に合わせて医師の指導を受けられる体制。 | | |
| 20 | 11 | 同業者との交流を通じた向上 | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との集まりに参加し、グループホームの役割、サービスの質の向上に等に取り組んでいる。 | | |
| 21 | | 職員のストレス軽減に向けた取り組み | 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | ストレスの軽減のため、仕事上での悩みだけではなく、個々の生活レベルの部分でも相談を受けている。 | | |
| 22 | | 向上心を持って働き続けるための取り組み | 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 利用者の人生の一部分に介護職が個々の人生の一部分の大切な時間を介護という仕事で提供している。より良いものを目指していくことを共有していける職場作りに努力している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----------|--------------------|---|---|--------------------|---|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | | |
| 23 | | 初期に築く本人との信頼関係 | 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 利用者からの言葉はまず受け止めるから始まり、その後介護職員、家族と相談し心身の安定を図る方向性を共有し利用者と共に生活を組み立てている | | 本人の発する言葉と本心との違いに配慮した聞き方、受け止め方ができるようになり的確な支援ができるよう介護力の向上をはかりたい |
| 24 | | 初期に築く家族との信頼関係 | 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族との両輪で利用者を守るを基本姿勢としている。利用者の良い情報だけでなくありのままを共有し、今の利用者の状態にとっての心身ともにより良いかわりができるよう努力している。24時間体制を作っている。 | | |
| 25 | | 初期対応の見極めと支援 | 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設型に入居は、利用者にとって別な負担を加えることになることを十分理解し合い、なれた場所での生活が継続できる方法を相談者と検討している。利用者が理解できないところで家族の気持ちが追い詰められての相談が多いと感じる。本人の気持ちに配慮した対応に努めている。 | | |
| 26 | 12 | 馴染みながらのサービス利用 | 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 急がずに、利用者がこの施設の受け入れをどのような形で受け入れていくのか観察し、個々の受け入れ方に合わせて支援している。現在はどの方も自分はしっかりしていて、他の方々を負のイメージに分析した言葉が見られている。全体が家族が通って挨拶を受けてだんだん馴染みになっていっている。当所は看取りまでとしている。時には家族の力を借りて生活リズムを作っている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | | |
| 27 | 13 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | これまで築き上げてきた人生観の強さを持っている方々との対面。廃用にむかわないような関わりをもてるよう努力している。 | | |
| 28 | | 本人を共に支えあう関係 | 家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 利用者にとって家族に勝るものに私たちはなれない。穏やかな気持ちで暮らしていただくには家族と共に支援は必須。 | | |
| 29 | | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 | これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族のなかには踏み込んでもらいたくないことが多々あるようです。限りある命ですので、後悔が少ない方法を慌てず時間かけて両輪で行う形をとる中で絆を大切にしている | | |
| 30 | | 馴染みの人や場との関係継続の支援 | 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人も家族の世話になるようになったりや、認知症の症状が付き合いのお断りもみられるようになっていく。家族の協力が大きく関係することなので、家族のできるスピードを尊重しながら、つながりを継続できるようになかかわりについての提案をさせていただいている | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|-------------------|--|--|--------------------|----------------------------------|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 31 | | 利用者同士の関係の支援 | 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者間の中での相性や、トラブルになりそうなときは共同生活者としての関係を保てるよう介護職員も加わりよい関係を保てるよう努力している。 | | |
| 32 | | 関係を断ち切らない取り組み | サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 契約終了後も地域での生活にストレスを感じると連絡が入り、健康のことや経済的なこと身内のこと等相談に応じたり、食事に出かけたりして関係を断ち切らない付き合いを大切にしている | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 1.一人ひとりの把握 | | | | | | |
| 33 | 14 | 思いや意向の把握 | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自慢の話を繰り返す人、夜でも寝巻きに着替えず(道端でも)排尿しやすいためにスカートしかはかない、同じところを延々とくりかえした編み物をする生活等、本人本位の生活を支援している。新しいことが受け入れが難しい方々でもあり個々の生き方の違いから個別に対応している。 | | |
| 34 | | これまでの暮らしの把握 | 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 自分の生き方があり、本人の生活歴の中で触れてほしくないもの、本人が語る自慢の部分等を会話の中から得るようにしている。できるだけ情報を共有し、健康面機能に及ばない部分については、本人の意向を大切にしている。 | | |
| 35 | | 暮らしの現状の把握 | 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 7領域からの視点で利用者の個別の持てる力を観察し、できないところを支援していき、もてる能力を奪わないことを介護の共通目的にしている。 | | |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | | |
| 36 | 15 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | よりよく暮らすための課題は、時には本人にとってまどろしかったり、面倒だったりすることにもつながって、話し合いを持ってもその場しのぎの言葉が返ってくるが多い。介護職員の知恵の出し合いや時には家族との連携でなければ難しいこともあるので行っている。日々のかかわりが個別の日報の中で見えるようにし利用者の心身の状態にあわせ、その都度寝たきりにならない介護計画を作成している | | |
| 37 | 16 | 現状に即した介護計画の見直し | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は期間に応じて見直すと共に、重度化や廃用予防を常に心がけ、現状の変化に随時話し合いタイムリーに関われるようにしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|------|------------------|---|--|--------------------|----------------------------------|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 38 | | 個別の記録と実践への反映 | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 開設時から利用者の日々の記録を重視し時間軸で記録しどの時間帯にどんな状況のときに把握できるよう努力し継続している。何かが心身の状態を保てなくなる引き金になり、混乱表情が見られることが多々あり。個別に記録し、引継ぎを大事に落ち着いた生活ができるようにしている | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | | |
| 39 | 17 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 空いている部屋を使って緊急退避の方を受けている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | | |
| 40 | | 地域資源との協働 | 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 自分の世界で、通りすがりの人に気軽に声をかけられる利用者の心が傷つかないように寄り添って、郵便局や警察、商店の方々の協力を頂いている。 | | |
| 41 | | 他のサービスの活用支援 | 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 認知症を本人がさほど重く考えることができない中で、本人の意向を何とか可能に向けていくのに取り巻く環境の方々と、どう支援していけるか話し合いに参加している。 | | |
| 42 | | 地域包括支援センターとの協働 | 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 利用者の状態に合わせて権利擁護等との対面の援助をしている。 | | |
| 43 | 18 | かかりつけ医の受診支援 | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 認知症の医療受診には介護者の観察、記録等からの医療へのつながりが不可欠ですし、入院ともなれば病状によっては本人の受け入れが難しくなることを家族と共有し適切な医療が受け入れられるよう連携している。 | | |
| 44 | | 認知症の専門医等の受診支援 | 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 神経内科や精神科に開始当時から協力していただいている。 | | |
| 45 | | 看護職との協働 | 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 診療所の看護師や当施設の看護師、医師と相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | | |
| 46 | | 早期退院に向けた医療機関との協働 | 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 病院関係者との情報交換や相談に務めている。早期退院に向けて当ホームの医師と入院先の医師との相談で決めている。 | | |
| 47 | 19 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りで終わりではない。残された家族との見取りの受け入れに時間をかけていっている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|--------------------|---|--|--------------------|----------------------------------|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 48 | | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 | 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 入居者の看取りまでを家族、かかりつけ医、と共に支援する体制で取り組んでいる。 | | |
| 49 | | 住み替え時の協働によるダメージの防止 | 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 生活場所を決定するのは利用者や家族。意向や関わる関係者の情報を頂き今後の変化に対応できる関係を確認して行っている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | | |
| 50 | 20 | プライバシーの確保の徹底 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 常に職員間で言葉かけや対応を検討し、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮して関わるようにしている。 | | |
| 51 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 | 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 個々の理解の仕方、納得の仕方に合わせて健康状態を保てるよう援助している。 | | |
| 52 | 21 | 日々のその人らしい暮らし | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日をどう過ごしたいかは個々のペースでしかできないと受け止めている。入居者の個々の希望にそって支援するよう努力している。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | | |
| 53 | | 身だしなみやおしゃれの支援 | その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 個々の身体状態、家族の経済上のこと、本人の希望を受け入れながら訪問美容も取り入れている。 | | |
| 54 | 22 | 食事を楽しむことのできる支援 | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご飯やパンを選択できるようにし、利用者の負担にならないよう、できるところの役割を担っていけるよう配慮し実践している。 | | |
| 55 | | 本人の嗜好の支援 | 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 習慣や健康状態、医師の指導等を受けて決められた場所で楽しめるようにしている | | |
| 56 | | 気持ちよい排泄の支援 | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排便リズム作りに腸の問題や本人の好みの便の状態もあり、コントロールには、医療受診をし相談し長い時間をかけて行うものという指導の下努力している。一人一人の排便リズムを観察、把握に努め気持ちの良い排泄を目指して努力している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----------|------------------|---|---|--------------------|----------------------------------|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 57 | 23 | 入浴を楽しむことができる支援 | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 「もう入った」とか、「昨日入った」、と言って清潔を保てない、入浴の拒否があったり、入ったことを忘れて何度も要求したり、入浴を楽しめるような個々の状態に合わせて支援している。 | | |
| 58 | | 安眠や休息の支援 | 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 周囲への配慮よりも、自分の暮らし方を主張するほうが強い方もいるが、一人ひとりが自分らしく、また穏やかに暮らす権利があり、保障していくことが大切な観点から支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | | |
| 59 | 24 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | なかなか個々の本当の喜びや張り合いを受け止めることが難しいが、一人ひとりが自分らしく、また心身に穏やかに暮らせるには軸に関わっている。日々の暮らし方の豊かさの支援になってほしいと願い、廃用にならないよう持てる機能(五感を含む)の活用への支援を行っている。 | | |
| 60 | | お金の所持や使うことの支援 | 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の経済状態への配慮や盗った、盗られたの混乱こともある。個々の状態に合わせて支援している。 | | |
| 61 | 25 | 日常的な外出支援 | 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | いい天候よとか、炎天下とか地面がぬれている等の情報提供をしている。外出は自由。 | | |
| 62 | | 普段行けない場所への外出支援 | 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族のいる人、いない人、家族間のある問題のある人、本人の健康状態等、様々な本人を取り巻く環境の中での外出を計画し行っている。 | | |
| 63 | | 電話や手紙の支援 | 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 毎日のように手紙を書き、ポストに入れに、テレフォンカードで電話をかけに見守りをしながら行っている。 | | |
| 64 | | 家族や馴染みの人の訪問支援 | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 毎日夕方、毎日夜、毎日曜日居室で家族で食事をしたり、でかけたり居心地よく過ごせるよう努力している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | | |
| 65 | | 身体拘束をしないケアの実践 | 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全体で、厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」から抜粋したものを貼り、常に拘束しない介護をめざしている | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|--------------------|---|---|--------------------|----------------------------------|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 66 | 26 | 鍵をかけないケアの実践 | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 人が通ればチャイムが鳴り、外出のサインができるようにし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | |
| 67 | | 利用者の安全確認 | 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 常勤の職員による昼夜なじみの介護職が関わることで、利用者の細やかな様子に配慮した介護ができるようにし安全に配慮している。 | | |
| 68 | | 注意の必要な物品の保管・管理 | 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 個人の興味のあるもの、身体状態に合わせて必要なものが違うので、一人一人に合わせて事故防止に取り組んでいる。 | | |
| 69 | | 事故防止のための取り組み | 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 歩行時、移乗時、階段昇降、嚔下、ひとりひとりの状態にあわせ職員が寄り添うようにし事故防止に取り組んでいる。 | | |
| 70 | | 急変や事故発生時の備え | 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 定期的ではないが様々な手当が必要な利用者がある(高血圧、低血圧、低酸素、低血糖、転倒時、誤嚥時等)ので随時医師の指導を受けて行っているので初期対応はできている。 | | |
| 71 | 27 | 災害対策 | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 緊急時の利用者のパニック状態の想像が難しい。現実的には避難しなくてすむような日ごろの点検を重視し行っているが、安全にパニックにならない誘導を訓練している。敷地内の自治会と連携が取れるようになっている。 | | |
| 72 | | リスク対応に関する家族等との話し合い | 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 契約時にもリスクについて話し合いを持っている。訪問時等で利用者の日常を共有していただく中で現在のリスクについても共有できるようにしている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | | |
| 73 | | 体調変化の早期発見と対応 | 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 重度化は寝たきりにつながると考えている。利用者の健康管理に常に情報を声かけあい、即対応できるよう役割分担している。 | | |
| 74 | | 服薬支援 | 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が医療受診援助をしており、通院記録、薬リストをファイルしてあり、通院時には日常の状態を医療につなげ、かかりつけ医及びかかりつけ薬局での指導や説明、相談にも快よく応じていただいているので把握し援助をしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|------|----------------------|---|---|--------------------|----------------------------------|
| 自己評価 | 外部評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| 75 | | 便秘の予防と対応 | 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 排便のリズムを重要な介護と捕らえ、カレンダーに記録し、摂取水分量の把握、温野菜、すりりんご、散歩等誘導や援助等に取り組んでいる。 | | |
| 76 | | 口腔内の清潔保持 | 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 口腔清潔の重要性の理解をはかり、歯冠ブラシの援助の人、準備から片づけまでの人、状態により歯科受診等援助している。 | | |
| 77 | 28 | 栄養摂取や水分確保の支援 | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は1600カロリーの献立により準備し、摂取量に応じて高カロリー補助食品を活用し、栄養のバランスを図っている。水分量は毎日把握記録している。 | | |
| 78 | | 感染症予防 | 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種実施したり、消毒液を常時準備し、媒介者にならないようにしている。今までの取り組みで感染症は蔓延していない。 | | |
| 79 | | 食材の管理 | 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理場には調理師資格を持ったものが衛生面の仕上げを行っており、ふきんの消毒、食器の乾燥等、安全と管理に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | | |
| 80 | | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 | 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 工夫している。立ち寄っていく人が増えている。 | | |
| 81 | 29 | 居心地のよい共用空間づくり | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を切らすことなく飾っている。 | | |
| 82 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり | 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 長いすを用意し利用されている。 | | |
| 83 | 30 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 置時計や家具等家族と相談しながら疎外感を持たないように配慮しながら工夫している。 | | |
| 84 | | 換気・空調の配慮 | 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 各居室ごとに計測・記録し、利用者の状態に合わせて加湿器等利用したりしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----------|-------------------|---|---|--------------------|----------------------------------|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | 小項目 | | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | | |
| 85 | | 身体機能を活かした安全な環境づくり | 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 既存の建物を利用しているので段差もあたりすぎるが、それ自体も持てる機能維持だったり廃用予防になると考えていて、安全に必要な部分は工夫し自立に向けた工夫をしている。 | | |
| 86 | | わかる力を活かした環境づくり | 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 新聞を見て日めくりカレンダーめくり、食器洗い、汚物の新聞包み後始末等できることを共に考え、できることを増やしたり継続できるよう工夫している。 | | |
| 87 | | 建物の外周りや空間の活用 | 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 住宅地内で交通の危険がなく十分に活用させていただいている。 | | |

(様式1)

自己評価票

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) |
|----------------------|----------|--|--|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | |
| サービスの成果に関する項目 | | | |
| 88 | | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない |
| 89 | | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない |
| 90 | | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 91 | | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 92 | | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者がこころへ出かけている <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 93 | | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 94 | | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 95 | | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどいない |
| 96 | | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに ほとんどない |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) |
|----------|----------|---|--|
| 自己 評価 | 外部 評価 | タイトル | |
| 97 | | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない |
| 98 | | 職員は、生き活きと働けている | <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない |
| 99 | | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない |
| 100 | | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない |